有限会社 漆琳工芸

▶対 象 類 型　デザイン
▶事 業 類 型　小規模型　設備投資
▶主たる目的　技術革新

漆器業界初のインクジェット印刷機を導入した漆器等製品の一貫生産体制の構築









1／フルカラーで、寿司皿なら一度に12枚まで印刷できる。システムや細かな調整などを「印刷機メーカーと一緒に作り込んでいる段階」。 2／インクジェット印刷に同社が得意とする曲面への印刷技術を応用し、色ムラが出たり柄がボケやすい皿のくぼみ、お椀の表面も鮮明な仕上がり。陶器のような質感や風合いも表現。 3・4／凸版上のインキをパッドに転移し、印刷物に押し付けて印刷する従来の「パッド印刷」で蒔絵を施し、職人の手で金粉を蒔きつける。

漆器製造の技術を生かし、あらゆるニーズに応える印刷を。

本来、一定の地域に小規模事業所が多数集まり生産工程ごとに分業する漆器製造において、漆琳工芸は印刷・塗装以降の工程に必要な技術や設備を有し、一貫生産を行ってきた。

近年、生活様式の洋風化により本物の漆塗り漆器製品への需要が減少。業界では漆器製造の技術を生かした「少量多品種生産」の食器分野へ進出する企業が増え、同社でも多様なデザインや短納期・小ロットでの対応が求められている。しかし工程が多く一色ごとに印刷版が必要な既存の技術ではコストがかかりすぎる。そこで印刷版がいらず一度で「フルカラー印刷」ができるUVインクジェット印刷機を導入し、デザインや材質が多様化する少量多品種の受注を可能に、さらには漆器等製品の一貫生産体制の構築を目指した。

工程やコストがかかる漆器製造におけるインクジェット印刷機の導入は画期的。従来のパッド印刷、スクリーン印刷に比べ、印刷版の製作、乾燥の工程も不要で大幅にコストが削減できた。またデジタルデータはデザイン変更にも即対応できるなど利点も多い。今後は漆器等製品に限らず、工業用製品やノベルティなど様々な分野に活用し、メーカーと企画段階から製品開発に携わっていく。

注目すべき成果

くぼみ・曲面への鮮明な印刷技術の開発に成功。

色ムラになったり柄がボケやすいくぼみや曲面への印刷。これを従来の独自技術およびUV硬化インクの濃度、着弾性能の調整により、くぼみは頂点からの高低差7mm、曲面は10mmまでの鮮明な印刷に成功した。

注目すべき成果

インクジェット印刷で、従来の課題を全てクリア。

UV硬化インクの使用で乾燥工程が不要になり、グラデーションやぼかしなど特殊な表現も可能に。版の作成もいらないので試作も低コストですみ、デザイン変更など急な仕様変更にも柔軟に対応できる。

事業活動の付加価値

多様なデザイン、材質への印刷技術で企画提案型の営業へ。

従来では困難だった多色印刷・小ロット・短納期を実現するインクジェット印刷技術を武器に、メーカーとの製品開発にも積極的に取り組む。今後も、多様なデザインや材質など、印刷の可能性を探っていく。

ものづくり専門員から一言

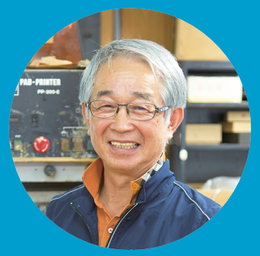
伝統と新たな技術で、枠にはまらないものづくり。

分業が基本の漆器業界において、印刷以降の全工程で一貫生産体制を構築する稀有な企業。今回のインクジェット印刷機導入により、新しい技術と伝統技法の両方を持ち合わせる印刷・塗装技術で新しい市場を開発できると期待している。

こんな会社です！

温故知新の技術とチャレンジ精神で創造する製造業へ。

漆器製造業として業務用漆器・仏具・工業用品の装飾・塗装を手掛けてきました。創業時は外食産業の発展とともに大量生産が求められ、漆器も手書きから印刷、木からプラスチックへと需要が移った頃。業界では一早くパッド印刷を取り入れ、市場のニーズに応えてきました。今後は職人の手とパッド印刷、スクリーン印刷、今回新たに導入したインクジェット印刷それぞれの特長を活かし、印刷技術の向上を図ります。また、社屋を構える永平寺町生まれの漆器「永平寺塗」をつくり、土地とともにある漆器文化を守っていくことも目標です。



代表取締役
大久保 長志さん



売上の多くを占める漆器製品の中でも、“曲面”への印刷や蒔きを施すお椀や箸など曲面のある漆器を多く受注している。



本社・工場

有限会社 漆琳工芸

代表者／代表取締役 大久保 長志
設立／平成元年（1989年）7月
資本金／300万円
従業員数／7人
事業内容／その他の製造業
売上高／5,696万円
〒910-1221 永平寺町山4-5-1
☎0776-63-3362　FAX.0776-63-4252
URL http://shitsurin.jp
E-mail shitsurin@joy.ocn.ne.jp